

私たちの町の遺跡 大名墓物語 細川家の人々

■第7話 殿様の体カトレーニング

北岡自然公園にある妙解寺（みょうげじ）跡の肥後細川家歴代藩主墓。その3代綱利の墓の脇には、形を整え、太いスリコギのような形にした大きな石が3つ置いてあります。重さは、小さなもので約60kg、大きなものは約180kgもあるといひます。これらは力石（ちからいし）といひ、力試しの競技会や体を鍛えるために用いられたものです。何故、そんなものが墓の脇にあるのでしょうか。

細川綱利。その治世期は17世紀の後半、元禄文化が花開いた時代です。そんな時代の空気の影ひもあつたのでしう、綱利は豪快で万事華やかな殿様でした。大の相撲好きで、大勢の力士を抱えたり、相撲道の家元ともいえる吉田司家を熊本に招聘したりもしました。自らも力自慢で、これらの力石を愛用し、持ち上げて体を鍛えていたといひます。180kgの石を持ち上げていたのですから、相当な力持ちだったのでしう。ただし、そんな殿様の言動を心配する家来達も多く、長老松井興長が華美を慎むように諫めたことがあつたほどです。

墓の脇に置かれた力石。それらは、豪快で力自慢の殿様の暮らしぶりを窺がわせてくれるのです。

熊本市文化振興課 美濃口雅朗



細川のお殿様が
一ハ〇kgの力石
を持ち上げていた
とは驚きたモン

